ロンバー・オディエ信託 SPECIAL

竹澤 恭子

スペシャル・コンサート

～ 未来のヴィルトゥオーゾを迎えて ～

Kyoko Takezawa Special Concert

2024 2.10 (土) 13:30開演

三井住友海上 しらかわホール

【主催】 テレビ愛知
【協賛】 ロンバー・オディエ信託(株)　税理士法人 MARKコンサルタンツ
【協力】 クラシック名古屋

コンサートに寄せて

毎年恒例のここしらかわホールでのリサイタル、誠に淋しい限りですが、本日のコンサートが最後の公演になります。私にとりまして、長年慣れ親しみ、数々の思い出と音楽体験を積ませていただきましたこの素晴らしいホールが地元名古屋にありましたことは、国内のみならず、国際的にも誇りであり、素敵な響きから得たインスピレーションは、自分の音楽表現にとても大きな影響を与えられました。この様なホールの存在は非常に貴重であり、沢山の皆様の生活が、より豊かなものになったと確信しております。

この度、締めくくりとなりますコンサートでは、音楽の将来を見据え、これから日本のみならず、国際的に音楽界を豊かなものにしてくれるであろう才能溢れる若手のフレッシュなアーティスト、それぞれアメリカやドイツで研鑽を積まれているチェリストの佐藤桂菜さん、ピアニストの進藤実優さんをお招きし、デュオやトリオの名曲を皆様にお届けいたします。そして、何よりこの二人のアーティストは、同郷の大府市出身でありまして、今後もこの地元から世界に向けて音楽発信ができたらどんなに素敵なことでしょう。

この度3人での演奏は初共演となりますが、私自身音楽を通してどの様な対話が展開されるのか、今からわくわくし、とても楽しみにしております。皆様とも是非、この3人の出会いの瞬間を音楽の喜びと共に分かち合えることができましたら、この上ない喜びでございます。

竹澤恭子

Program

J.S.バッハ：**無伴奏ヴァイオリン・ソナタ**
第2番 イ短調 BWV1003より「アンダンテ」

ベートーヴェン：**ヴァイオリンとチェロのための3つの二重奏曲**
第1番 ハ長調 WoO27
I. Allegro commodo / II. Larghetto sostenuto / III. Rondo.Allegretto

ブラームス：**ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 Op.100**
I. Allegro amabile / II. Andante tranquillo / III. Allegretto grazioso

— 休憩 —

チャイコフスキー：**ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」**
イ短調 Op.50

I. Pezzo elegiaco
II. Tema con variazioni: Andante con moto

Var I：L'istesso tempo
Var II：Più mosso
Var III：Allegro moderato
Var IV：L'istesso tempo
Var V：L'istesso tempo
Var VI：Tempo di Valse
Var VII：Allegro moderato
Var VIII：Fuga (Allegro moderato)
Var IX：Andante flebile, ma non tanto
Var X：Tempo di mazurka
Var XI：Moderato
Variazioni finale e coda：Allegro risoluto e con fuoco
Coda：Andante con moto – Lugubre

Program Notes

解説／山根悟郎

J.S.バッハ

無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003より「アンダンテ」

プログラムの冒頭は独奏曲。バッハが無伴奏ヴァイオリンのために書いた全6曲からなるソナタとパルティータは、あらゆる作曲家、そしてあらゆるヴァイオリニストにとって最も重要な作品集の一つであり、文字通り“不滅の金字塔”である。シゲティ、ミルシテイン、メニューインらをはじめとして、20世紀の、そして今世紀の偉大なヴァイオリニストのほとんどがコンサートで演奏し、録音を果たしてきた。この作品集を指して大ヴァイオリニストのエネスクはかつて「ヴァイオリニストのヒマラヤ」と呼んでいる。このアンダンテは、ソナタ第2番の第3番目の楽章に位置する。ヴァイオリン一本で伴奏とメロディーの両方を奏でる音楽で、足を引きずって歩くような重い伴奏に乗って、深い情感の感じられるメロディーが演奏される。切々と訴えかけるような、心に深く突き刺さる音楽だ。

ベートーヴェン

ヴァイオリンとチェロのための3つの二重奏曲 第1番 ハ長調 WoO27

次はヴァイオリンとチェロのデュオ。この二重奏曲はもともとクラリネットとファゴットのために書かれた作品だ。技術面の難易度もそこまで高くはなく、あっという間に終わる曲のコンパクトさ、屈託のない明るい雰囲気、愉快な響きを持つことなどから人気も高く、広く演奏されてきた。現代ではもともとの楽器だけでなく、様々な組み合わせで演奏される。作風からはベートーヴェンの初期に属する作品ではないかと見なされているものの、ベートーヴェン自身がこの作品に言及した証拠もなく、手書きの譜面も残っていない。パリで出版された記録はあるようだがその楽譜も残っていない。ベートーヴェンの死後になって出た、パリ版楽譜を下敷きとした楽譜が伝わっているのみである。このような状況もありベートーヴェンの作品ではない、「偽作」ではないかとの主張もあるが、決着はみていない。

ブラームス

ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 Op.100

前半最後はヴァイオリンとピアノのデュオ。このソナタはブラームスの残した3曲のヴァイオリン・ソナタのうち最もコンパクトで、最も親しみやすいと言われる。晴れやかな雰囲気に満ちていて、心温まる素敵な音楽だ。スイスのトゥーン湖というところで夏の休暇を過ごしていたブラームスは、友人のソプラノ歌手が友人たちとそこを訪れると知り、彼女のため（「親愛なる友人を想って」）作曲した。トゥーン湖とその周辺の地域には「メロディーに満ちあふれているので、うっかりどれかを踏んでしまうことがないようにしなければならない」とブラームスがジョークを言っているとおり、素晴らしい自然に触れて上機嫌なブラームスの姿がこの曲から見えてくるようである。なおこの曲の楽譜にはブラームス自身の手で「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ」と書かれた。すなわちピアノが単純な伴奏に終わることなく、ヴァイオリンと同じかそれ以上に重要な役割を果たすという意味合いがある。抒情的でありながらも高度な技巧が用いられており、バランスをうまくとりつつ演奏する事が求められる。

チャイコフスキー

ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」 イ短調 Op.50

最後はピアノを加えた三重奏。《偉大な芸術家》とは、チャイコフスキーにとって、そしてロシア音楽史においても非常に重要な音楽家ニコライ・ルビンシュタインのことを指している。1881年3月にルビンシュタインが45歳でパリにて客死（病死）するとチャイコフスキーは衝撃を受け、打ちのめされ、自らの死についても考えるに至った。その年の年末から翌年にかけルビンシュタインの「思い出」のために書かれたのが本作品だ。思い出に捧げられているとはいえ、悲劇的な、負の感情だけが作品を覆うわけではなく、チャイコフスキーのインスピレーションが総動員された煌びやかで豊かな傑作だ。この曲はニコライ・ルビンシュタインが亡くなったちょうど1年後の1882年3月23日にモスクワ音楽院で私的な初演が行われ、「とても適切なことだった」とチャイコフスキーを喜ばせた。演奏時間は45分から50分ほどと、とてつもなく長い。2つの楽章で構成され、第1楽章は暗く情熱的なソナタ。第2楽章は主題と11の変奏曲で、最後は第1楽章の主題に基づく葬送行進曲で結ばれる。

Profile

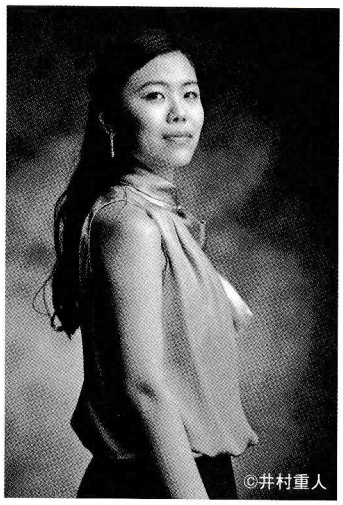
ヴァイオリン 竹澤 恭子 ―――― Kyoko Takezawa, violin

3歳からヴァイオリンを始め、桐朋女子高等学校音楽科に学ぶ。第51回日本音楽コンクール第1位、1986年第2回インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールで圧倒的な優勝を飾る。以来、“世界のKYOKO TAKEZAWA”として国際的スターダムを昇り続けている。これまで、ニューヨーク・フィル、ボストン響、シカゴ響、フィラデルフィア管、モントリオール響、ロンドン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、バンベルク響、バイエルン放響、リヨン管、ローマ・サンタ・チェチーリア管、ロイヤル・コンセルトヘボウ管など、世界の主要オーケストラと共演。指揮者では、クルト・マズア、ズービン・メータ、レナード・スラットキン、シャルル・デュトワ、リッカルド・シャイー、ケント・ナガノ、クリストフ・エッシェンバッハ、ヘルベルト・ブロムシュテット、小澤征爾らと共演している。2011年フィルハーモニア管弦楽団のスペインツアー、2012年ヘンゲルブロック指揮ハンブルク北ドイツ放送交響楽団の日本公演で共演、2014年には東京フィルハーモニー交響楽団100周年記念ワールドツアーのソリストを務め、高い評価を得た。2018年シーズンはデビュー30周年を迎え、各地でリサイタルツアーを成功させた。アスペン、ルツェルン、水戸室内管弦楽団、セイジオザワ松本フェスティバル、別府アルゲリッチ音楽祭への参加など、世界的な音楽祭にも出演を重ね、協奏曲、室内楽、リサイタルと幅広く活躍。CDは、RCAレッド・シールより多数リリース。また、才能教育研究会で学んだ経験を生かし、教育活動とともに、メニューイン、ロン＝ティボーなど国際コンクールの審査員も数多く務める。現在、東京音楽大学教授、桐朋学園大学特任教授。

使用楽器は、1724年製アントニオ・ストラディヴァリウス。

Profile

ピアノ　進藤 実優 ―― Miyu Shindo, piano


©井村重人

2002年生まれ。愛知県大府市出身。第18回ショパン国際ピアノコンクール（ポーランド）、第76回ジュネーブ国際音楽コンクール（スイス）セミファイナリスト。第7回ヴィーゴ市国際ピアノコンクール（スペイン）第1位及び聴衆賞受賞。第45回ピティナ・ピアノコンペティション特級ファイナル銀賞及び聴衆賞受賞。北京青少年ショパン国際ピアノコンクール（中国）シニア部門第3位。第21回浜松国際ピアノアカデミーコンクール第1位及び中村紘子賞受賞。第3回クライネフ国際ピアノコンクール（ロシア）セミファイナリスト。ジーナバッカウア国際ジュニアピアノコンクール（アメリカ）第3位。エッパン国際ジュニアピアノアカデミーコンクール（イタリア）第1位。大阪国際音楽コンクール　グランプリ受賞。これまでにカーネギーホール（ニューヨーク）、チャイコフスキーコンサートホール（モスクワ）、モスクワ国際音楽の家ホール（モスクワ）、オーストリア、イタリア、アメリカ、ロシア、中国、ドイツにて演奏。新日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、北京中央音楽学院交響楽団、セントラル愛知交響楽団などと共演。2018-2020年度　ヤマハ音楽支援制度奨学生。2021・2023年度ロームミュージックファンデーション奨学生。2018年よりモスクワ音楽院付属中央音楽学校（ロシア）にて学び、2021年卒業。2022年4月よりハノーファー音楽演劇メディア大学（ドイツ）在籍。4歳よりピアノを始め、現在アリエ・ヴァルディ氏に師事。またこれまでにヴァレリー・ピアセツキー、杉浦日出夫、二宮裕子、関本昌平、本村久子、細野真由美の各氏にも指導を受ける。

チェロ　佐藤 桂菜 ―― Keina Satoh, cello

愛知県大府市出身2000年生まれ。3歳より才能教育研究会にてチェロを始める。2013年から2015年までNHK名古屋青少年交響楽団に所属。星城中学校卒業後単身渡米、ボストンのウォールナットヒルスクールフォージアーツに入学。同時期にニューイングランド音楽院・プレパラトリースクールにダブルスクールで学び、2019年に卒業。同年ニューヨークのジュリアード音楽院に奨学生として入学、2023年に卒業。同年ロサンゼルスのコルバーンスクールに大学院生として全額無償にて入学。2021年度・2022年度ヤマハ音楽支援制度奨学生。2023年度CHANELピグマリオンデイズ参加アーティスト。銀座CHANELネクサスホールにて4回のソロコンサート、2回の室内楽を行う。2020年より毎年宗次ホール主催のソロコンサートに出演。2015年、第25回日本クラシック音楽コンクール中学生の部全国1位。同年、第2回刈谷国際音楽コンクール弦楽器部門中学生の部最優秀賞。2016年、第8回岐阜国際音楽祭コンクール弦楽器高校生の部1位。2020年、第74回全日本学生音楽コンクール全国大会大学の部1位。あわせて毎日新聞社奨励賞、NHK会長賞受賞。同年、第2回国際モスクワ音楽オンラインコンクール弦楽器部門18歳以上の部第1位。小澤征爾、竹澤恭子、金子三勇士、清塚信也の各著名人と共演の他、多数のソロリサイタルやコンチェルトのソリストとしてオーケストラと共演。これまでに故久保田顕、廣岡直城、林良一、林裕、中木健二、花崎薫、山崎伸子、エマニュエル・フェルドマン、デイヴィッド・フィンケル、クララ・キムの各氏に師事。現在、コルバーンにて元東京カルテットのグリーンスミス氏に師事。